

令和2年第3回平群町議会

定例会会議録（第4号）

招 集 年 月 日	令和2年6月12日																												
招 集 の 場 所	平群町議会議場																												
開 会 （ 開 議 ）	6月12日午後2時2分宣告（第4日）																												
出 席 議 員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 番 岩 崎 真 滋</td> <td style="width: 50%;">2 番 長 良 俊 一</td> </tr> <tr> <td>3 番 山 本 隆 史</td> <td>4 番 井 戸 太 郎</td> </tr> <tr> <td>5 番 稲 月 敏 子</td> <td>6 番 植 田 い ず み</td> </tr> <tr> <td>7 番 山 口 昌 亮</td> <td>8 番 森 田 勝</td> </tr> <tr> <td>9 番 山 田 仁 樹</td> <td>1 0 番 窪 和 子</td> </tr> <tr> <td>1 1 番 下 中 一 郎</td> <td>1 2 番 馬 本 隆 夫</td> </tr> </table>	1 番 岩 崎 真 滋	2 番 長 良 俊 一	3 番 山 本 隆 史	4 番 井 戸 太 郎	5 番 稲 月 敏 子	6 番 植 田 い ず み	7 番 山 口 昌 亮	8 番 森 田 勝	9 番 山 田 仁 樹	1 0 番 窪 和 子	1 1 番 下 中 一 郎	1 2 番 馬 本 隆 夫																
1 番 岩 崎 真 滋	2 番 長 良 俊 一																												
3 番 山 本 隆 史	4 番 井 戸 太 郎																												
5 番 稲 月 敏 子	6 番 植 田 い ず み																												
7 番 山 口 昌 亮	8 番 森 田 勝																												
9 番 山 田 仁 樹	1 0 番 窪 和 子																												
1 1 番 下 中 一 郎	1 2 番 馬 本 隆 夫																												
欠 席 議 員	な し																												
<p>地方自治法第121条 第1項の規定により 説明のため出席 した者の職氏名</p>	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">町 長</td> <td style="width: 50%;">西 脇 洋 貴</td> </tr> <tr> <td>副 町 長</td> <td>植 田 充 彦</td> </tr> <tr> <td>教 育 長</td> <td>岡 弘 明</td> </tr> <tr> <td>会 計 管 理 者</td> <td>大 辻 孝 司</td> </tr> <tr> <td>政 策 推 進 課 長</td> <td>巳 波 規 秀</td> </tr> <tr> <td>総 務 防 災 課 長</td> <td>川 西 貴 通</td> </tr> <tr> <td>税 務 課 長</td> <td>橋 本 雅 至</td> </tr> <tr> <td>住 民 生 活 課 長</td> <td>大 浦 孝 夫</td> </tr> <tr> <td>健 康 保 険 課 長</td> <td>辰 巳 育 弘</td> </tr> <tr> <td>福 祉 こ ど も 課 長</td> <td>西 岡 勝 三</td> </tr> <tr> <td>観 光 産 業 課 長</td> <td>島 野 千 洋</td> </tr> <tr> <td>都 市 建 設 課 長</td> <td>今 田 良 弘</td> </tr> <tr> <td>教 育 委 員 会 総 務 課 長</td> <td>松 村 嘉 容</td> </tr> <tr> <td>上 下 水 道 課 長</td> <td>寺 口 嘉 彦</td> </tr> </table>	町 長	西 脇 洋 貴	副 町 長	植 田 充 彦	教 育 長	岡 弘 明	会 計 管 理 者	大 辻 孝 司	政 策 推 進 課 長	巳 波 規 秀	総 務 防 災 課 長	川 西 貴 通	税 務 課 長	橋 本 雅 至	住 民 生 活 課 長	大 浦 孝 夫	健 康 保 険 課 長	辰 巳 育 弘	福 祉 こ ど も 課 長	西 岡 勝 三	観 光 産 業 課 長	島 野 千 洋	都 市 建 設 課 長	今 田 良 弘	教 育 委 員 会 総 務 課 長	松 村 嘉 容	上 下 水 道 課 長	寺 口 嘉 彦
町 長	西 脇 洋 貴																												
副 町 長	植 田 充 彦																												
教 育 長	岡 弘 明																												
会 計 管 理 者	大 辻 孝 司																												
政 策 推 進 課 長	巳 波 規 秀																												
総 務 防 災 課 長	川 西 貴 通																												
税 務 課 長	橋 本 雅 至																												
住 民 生 活 課 長	大 浦 孝 夫																												
健 康 保 険 課 長	辰 巳 育 弘																												
福 祉 こ ど も 課 長	西 岡 勝 三																												
観 光 産 業 課 長	島 野 千 洋																												
都 市 建 設 課 長	今 田 良 弘																												
教 育 委 員 会 総 務 課 長	松 村 嘉 容																												
上 下 水 道 課 長	寺 口 嘉 彦																												
本 会 議 に 職 務 の た め 出 席 し た 者 の 職 氏 名	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">議 会 事 務 局 長</td> <td style="width: 50%;">西 谷 英 輝</td> </tr> <tr> <td>主 幹</td> <td>高 橋 恭 世</td> </tr> <tr> <td>主 査</td> <td>大 文 字 睦 美</td> </tr> </table>	議 会 事 務 局 長	西 谷 英 輝	主 幹	高 橋 恭 世	主 査	大 文 字 睦 美																						
議 会 事 務 局 長	西 谷 英 輝																												
主 幹	高 橋 恭 世																												
主 査	大 文 字 睦 美																												
議 員 提 出 議 案 の 題 目	発議第 3号 スマート農業の実現による競争力強化の加 速を求める意見書（案）																												
議 事 日 程	議長は、議事日程を別紙のとおり報告した。																												

再 開 （午後 2 時 0 2 分）

○議 長

皆さん、こんにちは。

初日の本会議において選任同意いただきました農業委員会委員の松村容嘉様が農業委員会委員 14 名の方を代表されまして御挨拶に参っておられますので、お受けしたいと思います。

松村様、よろしく申し上げます。

○農業委員会委員（松村容嘉）

皆さん、こんにちは。農業委員の松村でございます。

このたびは、農業委員の改選に当たりまして農業委員 14 名の御同意をいただき、誠にありがとうございました。そしてまた、去る 2 月 10 日には議員さんの懇談会、貴重な御意見ありがとうございました。そしてまた、これから平群町の農業振興のために、町議会の先生方の御尽力をいただけますよう、よろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

○議 長

どうもありがとうございました。

ただいまの出席議員は 12 名で定足数に達しておりますので、令和 2 年平群町議会第 3 回定例会を再開いたします。

これより本日の会議を開きます。

（ブー）

○議 長

本日の議事日程は、お手元に配付しております議事日程表のとおりです。日程表に従い議事を進めてまいります。

日程第 1 発議第 3 号 スマート農業の実現による競争力強化の加速を求める意見書（案）

を議題といたします。

議案の朗読を求めます。局長。

○局 長

それでは朗読いたします。

発議第 3 号

スマート農業の実現による競争力強化の加速を求める意見書（案）

上記の議案を、別紙のとおり会議規則第 14 条第 1 項及び第 2 項の規定により提出する。

令和 2 年 6 月 12 日

提出者 窪 和 子

賛成者 長 良 俊 一

スマート農業の実現による競争力強化の加速を求める意見書（案）

超高齢社会となり農業従事者の減少が見込まれる中、農林水産業の現場では、依然として人手に頼る作業や熟練者でなければできない作業が多く、省力化、人手の確保、負担の軽減が大きな課題となっている。

こうした状況を打破するため、政府は2022年度までに、様々な現場で導入可能なスマート農業技術が開発され、農業者のスマート農業に関する相談体制が整うなど、スマート農業の本格的な現場実装を着実に進める環境を整えるため、「農業新技術の現場実装推進プログラム」に即した取り組みを進めようとしている。これにより農業現場が抱える農業従事者の減少や農業の生産性の向上といった課題に対応することが期待されるが、各々の施策が着実に現場において推進されなければならない。

そこで、「農業新技術の現場実装推進プログラム」が農業者だけでなく、企業、研究機関、行政機関などの関係者を巻き込んで推進できるよう、下記の事項に取り組むことを求める。

記

- 1 農業経営の将来像を示し先進的な農業経営の姿を地元の生産条件を加味し、営農類型をよく把握した上で提示すること。
- 2 技術ごとのロードマップを示し、実証・市販化・普及を農業者が求める技術やサービスとして提示できるよう現場の意見を把握しながら推進すること。
- 3 技術実装については、不断の努力が必要であり、K P I（重要業績評価指標）を重視しつつも、農業の特性に応じた中長期の実践を支援すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

以上でございます。

○議 長

提出者の趣旨説明を求めます。窪君。

○10番

スマート農業の実現による競争力強化の加速を求める意見書（案）に対する趣旨説明をさせていただきます。

ただいま事務局長に朗読していただきましたが、日本の農業は、農業従事者の高齢化、後継者不足に伴う労働力不足をはじめ、耕作放棄地の増加や食料自給率の低下など、様々な問題を抱えております。そこで、皆様も御承知のスマート農業とは、ロボット技術やICT、AI等の先端技術を活用し、超省力化や生産物の品質向上を可能にする新しい農業であり、日本農業の抱える課題を

解決、成長産業化する試みであり、推進が急務とされています。

今後、スマート農業をさらに活用することにより、農作業における省力・軽量化をさらに進めることができるとともに、新規就農者の確保や栽培技術力の継承等が期待される効果となります。政府は、2022年度までにスマート農業の本格的な現場実装を着実に進める環境が整うよう、農業新技術の現場実装推進プログラムに即した取組を進めようとしております。

そこで、農業新技術の現場実装推進プログラムが、農業者だけでなく、企業、研究機関、行政機関などの関係者を巻き込んで推進を求める意見書でございます。

以上、簡単ではございますが、趣旨説明とさせていただきます。どうか皆様には御賛同をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

○議長

これより本案に対する質疑に入ります。山口君。

○7番

この意見書については、基本的に、農業の重労働のところを省力化していくっていう、そういう点ではいいんですが、ただ平群町も基幹産業が農業ということで、せっかくの機会なんで、幾つか私も勉強したいということで、質問させていただきます。

まず、競争力強化と書いてあるんですけどね、表題には。何に対して競争力強化なのか、ちょっと読んでも今の説明を聞いても分からなかったものですから、端的にどういうことなのか説明いただけますか。

○議長

窪君。

○10番

競争力の強化というのは、いろいろな捉まえ方があると思いますがけれども、それぞれ、やはり一つの生産物に対しても、品質向上によりまして、お互いにその向上を伴い、よりいいものを作っていく、そういうことが一つと考えられます。

○議長

山口君。

○7番

国内で、その生産者同士が切磋琢磨するという意味ですね、今の話だったら。初め、ぱっと見て、日本の農業、今、政府も挙げてですね、相当海外へ輸出する部分も出てますし、平群町でもイチゴなんか、一部そういうふうな、あるみたいですけども、それで、そういうことも含むのかなと思って聞いたんで

すが、切磋琢磨するっていう意味ならそれはそれで、別に競争力強化でも間違いではないので結構です。

それからですね、ちょっと調べてみると、政府全体としてはこれに相当今年度、国の予算も上げられてですね、補正予算でも倍ぐらいに増やしてるというようなことで、特にその中でちょっと気になったのが、基盤整備ということですね、スマート農業を実現するための基盤整備の予算が相当計上されて、これは農地の大区画化ということなんですけれども、規模が400ヘクタール以上というところで、今年度50か所、政府としてはそれに助成を補助をするというようなことなんですけれども、このことは今度のことには全く触れられてないんですが、それは別に、説明あったように、現場の実装推進プログラムの推進ということが主なことなんで、そのことはいいんですけれども、そのこと、もし答えられるなら、そのことが一切書かれてないのはなぜなのかということ。

それともう一つですね、このスマート農業実証プロジェクトっていうのが、ここには書かれてませんが、今、全国で69地区で実際に、ほかの事業で言うと、特区みたいな形で行われてるようなんですけれども、特にこれまで被災地を中心にやられてたのを、今年度ですね、新たに被災地や中山間地域でプログラムを立ち上げる方向と、これは政府の方針ですね。平群町も、さっき言いましたように、農業は基幹農業ですから、平群町でもこういうプロジェクト、要するに、政府が進めようとしている農業実証プロジェクトについて手を挙げて進めようとしてるのか。ただ、細かいことは分かりませんから、そういうことも視野に入れてるのか、もう既にそういう方面で調べてやっているのか、その辺、当局も含めてですね、後半の部分は当局のほうで答えていただければと思いますので、もし答えられるようであればよろしくお願いします。

○議長

窪君。

○10番

政府は、その第2次補正等々でもこれを、2022年度までにこういうことでスマート農業を推進していきたいということで、今年の4月からも応募があったと思います。約50か所ですかね、応募がありました。奈良県におきましては1か所、五條市の柿ですね、これがスマート農業で、この国の補助金が出ております。スマート農業組合推進対策事業費補助金というものが出ておりますので、こういうことに対しても、さらに平群町におきましては基幹産業でありますので、しっかりとこういうことも知っていただいて、行政とともに、平群町でもこういうことに手を挙げていただけるようになればいいかなと、このように思っております。

○議 長

観光産業課長。

○観光産業課長

平群町での取組ということなのですが、この現場実装推進プログラムについて、直接、今、手を挙げているという状況ではないんですが、県下、それから全国の取組等を見ながらですね、取り入れるものがあれば積極的に取り入れたいというふうに思います。今のところ、かなり規模の大きいものが主になるようですので、そこら辺、見極めながら、また可能であれば取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議 長

山口君。

○7 番

最後、質問じゃないんですけど、今、課長言われたように、大規模だけでは、多分今後なくなってくると思うんですよ。平群町の場合、特に小菊の生産で言えば、相当な面積をやられてて、もうほとんど人力というか、朝早くから畑の中で仕事をされてるのをしょっちゅう見ますけれども、そういう平群町でどういう取り入れ方ができるのかどうか分かりませんが、その辺についてはね、やっぱり進めていくというのは必要だと思うんで、今後、積極的に検討していただきたいということは、せっかく発言したので、そのことはお願いしておきたいと思います。

以上です。

○議 長

質疑ございませんか。

「なし」の声あり

○議 長

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ございませんか。長良君。

○2 番

私自身が農業に携わってる人間として、このスマート農業の実現に当たりましてね、平群町に置き換えて考えてみたときの率直な意見を一言付け加えさせていただきます。

平群町は、関西近郊の一番近いベッドタウン化された農業産地であります。大阪から第二阪奈を通りまして、約30分もたたないところにはなぼ〜とプロ

ッサムという花卉の競り市場があります。また、このまま阪神高速をずっと行くと、大阪の中央卸売の青果市場。まさしく、軟弱野菜であろうが、花卉、果樹であろうが、花に至るところまで、あらゆるところで出荷能力の高い地域に平群の位置はあるというふうに考えていただいたらいいと思います。

私、この議員をさせていただく前に市場勤めをさせていただきまして、近郊のこの平群町の生産地は、お花であれば小菊、また冬季でしたら桃だとか、そういったものをお預かりさせてもらい、またバラもしかりであります。また、果樹に至っては、以前はメロン、トマト、そういった形で、果樹も盛んに農業されていました。ただ、農業の経緯というのは昔ながらの田んぼと一緒に3ちゃん農業でありましたが、ここへ来て、やはり世界の方々の農業を勉強されるに当たって、大規模経営をする、そういった観点から、どんどんこのスマート農業というような考え方でパソコンを取り入れ、農地をちゃんと区画整理して、坪単価当たりの収益を考える、この基本に返っていく原点がスマート農業の起点になっていると思っております。

ただ、長々となって申し訳ないんですけども、これから平群町において、やはりテレワークやいろんな形で、この地元で産業の中で働いていただいて、地元の野菜を食べ、地元のもの食べて大きく育つ、地産地消、適地適作の中で、この平群町における、やはり活力あるまちづくりの担い手として、農業は欠かせない基幹産業として行政の方々も頭に入れていただいて、支援していただけるように、私、賛同させていただきました。

どうかこれからも、農業振興のためにも一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくをお願いします。

○議 長

長良議員、賛成ですね。

○2 番

賛成です。すみません。

○議 長

討論ございませんか。稲月君。

○5 番

私のほうからは、この意見書については、少々意見を述べさせていただいて、賛成をさせていただきたいというふうに思っています。

ただいま、質疑の中でも山口議員のほうからる質問がありましたけれども、やっぱりまだまだ山間地、中山間地域、平群もその地域が結構あるわけですけども、そういったところ、全国的にはたくさんあると思うんですよね。それと、中小規模でやられている農家、日本の農業は家族経営でもっているというふう

にずっと言われてきてて、そこを何とか省力化ということで、こういうことが今、されようとしてるわけですけれども、しかし、まだまだそういう家族経営を中心に行われているという、そういった実態の中でね、やっぱりこれを推進していく中でも、しっかりそういった小規模の経営、狭い農耕地を耕すという、そういった家族経営のところにも、安価で活用しやすいもの、そういったものの、この中で検討をぜひとも積極的に併せてやっていってほしいなというふうに思っています。

決して、日本のこれまでの農家をつぶさないということできちっとやっていっていただきながら、やっぱり労力の省力化というのかな、そういうものも研究し、推進をしていただいたらいいのかなというふうに思いますので、その辺の意見をつけさせていただいて、賛成をさせていただきます。

○議長

ほかにございませんか。

「なし」の声あり

○議長

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。

これより発議第3号について採決を行います。

本案については原案どおり可決し、意見書として関係機関へ送付することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○議長

異議なしと認めます。よって、発議第3号 スマート農業の実現による競争力強化の加速を求める意見書（案）については、原案どおり関係行政庁へ送付することに決定いたしました。

続きますして

日程第2 委員会の閉会中の継続調査の件
を議題とします。

議会運営委員長より、会議規則第75条の規定によって、お手元にお配りしました閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りします。

委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることにいたしたいと思

いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○議 長

異議なしと認めます。よって、委員長からの申出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定いたしました。

以上で本定例会に付議された事件については全て終了いたしました。

これで本日の会議を閉じます。

町長、閉会に当たりまして、御挨拶をお願いします。町長。

○町 長

それでは、6月定例議会閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

6月2日より本日までの11日間の会期におきまして、議員の皆様には、補正予算をはじめ、全ての上程案件につきまして慎重審議いただき、承認、可決、同意を賜り、誠にありがとうございました。

定額給付金の状況について御報告させていただきます。

6月12日現在で申請受付が7,808世帯、申請率が96.8%、支給件数が7,603世帯、95.4%で、1万7,812人、96.1%となっております。週明けには、未申請の方、225世帯あります。その方に対して再通知を行い、定額給付金の申請勧奨に努めてまいりたいというふうに考えております。

また、新型コロナウイルス感染症につきましては、感染者の数は減少傾向にありますが、日常生活について、戻りつつありますが、新しい生活様式を取り入れ、第2波、第3波の到来への備えをしております。

また、国の第2次補正予算に係る地方創生臨時交付金につきましては、予算の可決成立後、町の施策につきましては、早急に案を取りまとめて、議会のほうへ報告をしております。

また、6月10日には近畿地方も梅雨に入り、本格的な雨や台風シーズンを迎え、災害に対する備えもしておかなければなりません。引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止や、いつ起こるか分からない災害に備えて、住民の生命と財産、安心・安全を守るために、万全な体制づくりでしっかりと取り組んでまいります。

議員各位におかれましては、なお一層の御理解と御協力をお願い申し上げ、6月定例会閉会に当たりましての挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○議 長

これをもって令和2年平群町議会第3回定例会を閉会いたします。

(ブー)

閉 会 (午後 2時22分)